

株主の皆さまへ

第85期報告書

(平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで)

東芝機械株式会社

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。当社の事業活動につきましては、平素よりご高配を賜わり、心よりお礼申し上げます。

ここに、株主の皆さまへ（第85期報告書）をお届けするにあたりまして、ひと言ごあいさつ申し上げます。

当社グループは、東芝機械アクションプログラムG1500（TM-AP G1500）を3年間推進してまいりましたが、将来に向けさらなる成長を成し遂げるために完全リニューアルし、この4月から新たな中期経営計画をスタートさせました。その名称を、当社グループがグローバルに多様化・応変しながら成長し続けることを意味するTM GrowVary Planといたしました。

その中で、「超精密から超大型まで」の「ものづくりNo.1の生産手段」を、成長市場を牽引するリーディングカンパニーに提供し、グローバル展開を強力に推し進めることにより、受注・売上の確保と収益性の向上を図ってまいります。

また、営業戦略、生産戦略、技術戦略、人財戦略を推進するとともに、ISO9001・14001をベースとした品質・環境管理の徹底等に注力し、会社の将来を担う人材の育成ならびに法令遵守、社会貢献など企業の社会的責任活動等を徹底してやり遂げることで、企業価値の最大化を図り、株主、顧客、取引先、従業員、地域社会等のステークホルダーに報いることができる企業を旨ざしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

平成20年6月



取締役社長 中島 礼二

企業集団の現況に関する事項

当期の国内経済は、前半には企業収益の改善による高水準な民間設備投資や底堅い輸出に支えられ、緩やかな拡大を続けましたが、後半には原油・原材料価格の高騰や円高、サブプライムローン問題を背景とした米国経済の後退懸念などにより、不安定な状況下で推移いたしました。

一方、海外に目を向けますと、中国や他のアジア諸国は高成長を継続いたしました。欧州経済も、概ね堅調に推移いたしました。米国経済は、サブプライムローン問題などの影響を受け、成長のペースが鈍化いたしました。

機械業界におきましては、一部に力強さに欠ける業種も見受けられましたが、設備投資や輸出の貢献により、全体としては底堅い動きで推移いたしました。

このような状況のもとで、当社グループは、CS（顧客満足）を基盤として、国内外市場での受注確保、新商品の開発、市場の開拓等に全力をあげて取り組みました。

しかしながら、当期の連結受注高は、半導体装置事業の連結子会社であった株式会社ニューフレアテクノロジーが、持分法適用関連会社へ変更となり連結対象から除外された影響を受け、前期を15.9%下回る1,556億3千1百万円となりました。前期の受注高から株式会社ニューフレアテクノロジーの受注高を除きますと1,572億7百万円であり、好調な工作機械、油圧機器などが増加いたしました。成形機部門で一部の業界に設備投資の停滞が見られ、わずかながら減少となりました。

連結海外受注高は、全体の45.4%、706億3千9百万円となりました。

また、連結売上高も、受注と同様の影響を受け、前期比9.5%減の1,487億7千9百万円となりました。ダイカustomシン、押出成形機、工作機械、油圧機器などが増加いたしましたので、前期の売上高から株式会社ニューフレアテクノロジーの売上高を除いた1,413億2千3百万円と比較して、5.3%増加いたしました。

連結海外売上高は、全体の45.1%、671億5千5百万円となりました。

以上の結果、当期末の連結受注残高は、受注・売上と同様の影響を受け、前期比6.1%減の790億2千5百万円となりました。工作機械およびその他部門が増加いたしましたので、当期末の受注残高から株式会社ニューフレアテクノロジーの受注残高を除いた721億7千2百万円と比較して、9.5%の増加となりました。

連結損益につきましては、各種成形機、工作機械などの貢献とともに、経営全般にわたる合理化努力をいたしました結果、営業利益は189億7千1百万円となり、前期の営業利益から株式会社ニューフレアテクノロジーの営業利益を除いた179億9千3百万円と比較して、5.4%の増益となりました。また、経常利益は、181億7千8百万円を計上いたしました。当期純利益は、通常の営業活動による利益に加え保有株式売却に伴う特別利益の計上もあり、前期比28.5%増の139億1千万円を計上し、過去最高を更新いたしました。加えて、営業利益率、経常利益率、当期純利益率はいずれも過去最高となりました。

事業別の概況

事業別の連結受注高・連結売上高は、次のとおりであります。

成形機事業（射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など）

受注面におきましては、押出成形機は国内外の光学用フィルム・シート製造業界および樹脂コンパウンド業界向け等に高水準で推移いたしました。射出成形機、ダイカストマシンは国内向け需要の一部に停滞感が見られました。

この結果、成形機部門全体の連結受注高は、前期比7.6%減の860億5千9百万円（海外比率51.7%）にとどまりました。

一方、連結売上高につきましては、ダイカストマシンや押出成形機が増加いたしましたので、前期比2.5%増の881億5千2百万円（海外比率50.4%）となりました。

工作機械事業（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤、精密加工機など）

受注面におきましては、精密加工機が減少いたしました。横中ぐり盤、大型機等が産業機械、鉄鋼、造船業界向けなどに、また門形機、立旋盤等が建設機械、エネルギー関連、航空機業界向けなどに好調でした。

この結果、工作機械部門全体の連結受注高は、前期比14.4%増の454億1千4百万円（海外比率40.6%）となりました。

一方、連結売上高につきましても、受注と同様の傾向を示しましたので、前期比19.2%増の374億7千万円（海外比率40.8%）となりました。

その他の事業（油圧機器、電子制御装置など）

受注面におきましては、電子制御装置が若干減少いたしました。油圧機器が、海外のインフラ整備用や資源開発（鉱山）用建設機械向けに好調でした。

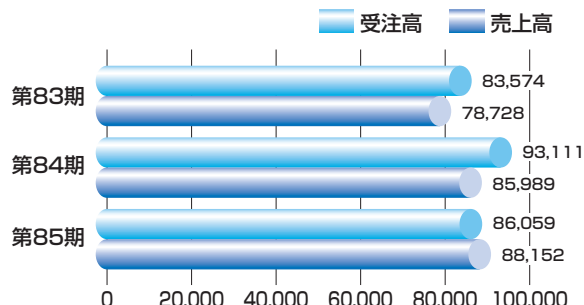
この結果、その他部門全体の連結受注高は、前期比7.5%増の241億5千7百万円（海外比率31.8%）となりました。

一方、連結売上高につきましても、受注と同様の傾向を示しましたので、前期比6.7%増の231億5千6百万円（海外比率32.0%）となりました。

（注）第83期、第84期には半導体装置事業を掲載しておりましたが、株式会社ニューフレアテクノロジーが、第85期より持分法適用関連会社に変更となり連結対象から除外されたため、事業別の概況に記載していません。

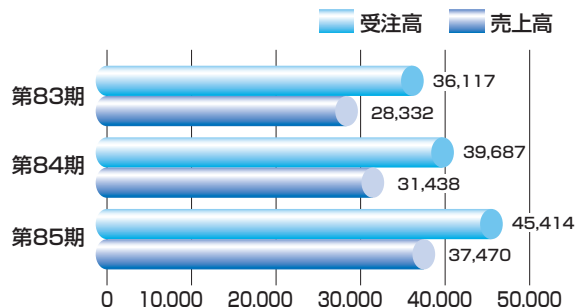
■ 成形機事業受注・売上高推移

（単位：百万円）



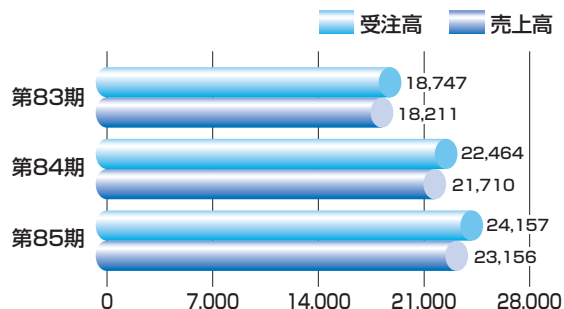
■ 工作機械事業受注・売上高推移

（単位：百万円）



■ その他の事業（油圧機器、電子制御装置など）受注・売上高推移

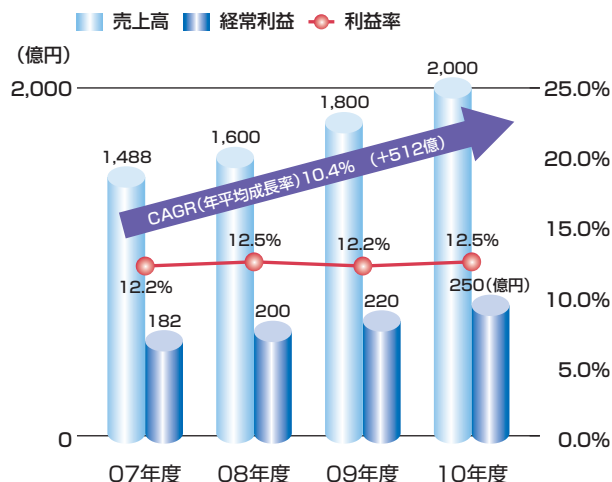
（単位：百万円）



新中期経営計画

TM GrowVary Plan 中期経営計画（08年度～10年度）の策定

- ◆成長市場でのリーディング・カンパニーに当社生産手段（世界で一番の商品）の価値を認めてもらい、共に成長していきます。
- ◆国内経済は成長が不透明であるため、売上・利益拡大のためにグローバル展開を強化します。
- ◆売上高年平均成長率10%、ROS12%以上を確保し、2010年度に売上高2,000億円、海外受注高比率55%を目標にさらなる成長を目指します。



※経常利益の棒グラフは、3倍表示しています。

※07年度は実績、08年度から10年度は計画数値を表しています。

目標達成のための経営戦略

- ◆景気の波に左右されない本物の実力をつけるために、営業戦略・生産戦略・技術戦略・人財戦略の4基本戦略を、組織の末端まで施策レベルに落としこんだ上で推進します。
- ◆グローバル展開を積極的に推し進めるために、海外拠点28拠点（2007年度）を中国・ASEAN・インドを中心に39拠点（2010年度）に増設し、海外で活動する営業・サービス人員を350人規模から450人規模にする計画です。
また、成長著しい新興国の市場に対応するために、上海工場に次ぐ第2の海外生産拠点をインドまたはASEAN地域に設立することを検討します。
- ◆エネルギー事業や建機業界などの重厚長大産業の拡大に対応して、工作機械事業の拡大を目指します。御殿場第2工場の建設・既存工場の整備により、生産能力を増大させ、2010年度売上高460億円を目指します。

■クラウスマッファイ社（独）とパートナーシップ契約締結

本年2月、当社はドイツのクラウスマッファイ（Krauss Maffei）社と、最先端のプラスチック加工機械の開発に関するパートナーシップ契約を締結いたしました。本契約に基づき、それぞれの市場や技術分野において専門技術を補完することにより、21世紀の顧客ニーズに訴求する最先端の機械を開発してまいります。今年の秋には最初の成果を出せるよう、既に共同プロジェクトが開始されております。

クラウスマッファイ社はドイツのミュンヘンに本社を置き、3部門（射出成形テクノロジー、反応射出成形（RIM）テクノロジー、押出成形テクノロジー）を有しております。売上高ベースでプラスチック・ゴム関連の加工機械およびシステムの世界的マーケットリーダーであり、グループ全体では約4,000名の従業員がおります。



調印式で

■株式会社ハイエストコーポレーションが発足 ～当社油圧機器事業部を分社化～

本年4月1日付で、経営環境や市場動向の変化に迅速に対応するため、当社の油圧機器事業部を分社し、株式会社ハイエストコーポレーションを設立いたしました。

当社の油圧機器は、日本国内をはじめ、中国など発展著しい国々のインフラ整備にも使われているパワーショベル等建設機械の基幹部品として、主要建設機械メーカー各社に採用されております。

建設機械業界は今後も大いに成長が期待できる分野で、ハイエストコーポレーションの技術力を生かして共に成長していくことを期待しております。



設立式典で

■上海第3工場完成間近

東芝機械（上海）有限公司の第3工場建設工事が、本年7月の完成に向けて順調に進んでおります。第3工場完成後は、射出成形機・ダイカストマシンの月産250台生産体制が確立され、中国、インド、東南アジア市場等を中心に拡販し、当社グループの規模拡大に大きく貢献いたします。

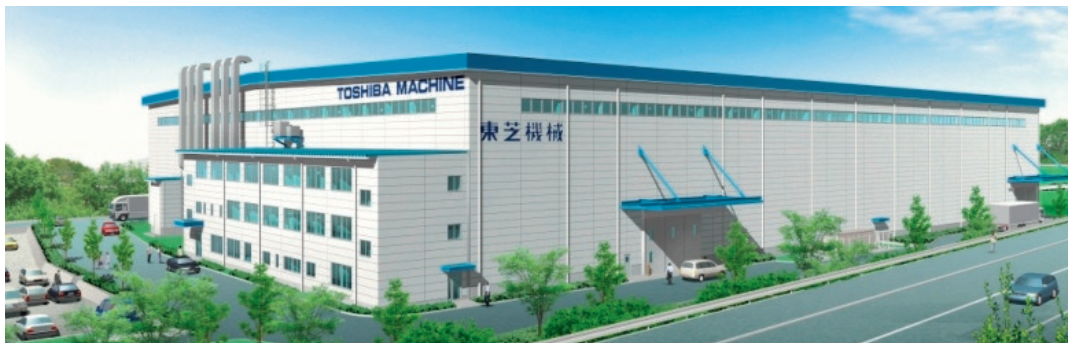


第3工場完成後の上海工場全景

■御殿場第2工場建設工事状況

御殿場第2工場の建設工事が本年9月の完成に向けて順調に進んでおります。御殿場第2工場は、付帯設備を含めると建築面積は約10,000㎡となり、天井走行クレーン9基（楊程13m）、ウォールクレーン18基（楊程5m）、塗装設備、恒温室、自走台車等で構成されます。

また、基礎の柱部は、ラップルコンクリート柱により岩盤に支持、床面は直径1,200mmのテノコラム柱を1,500本以上使用することによって床過重強度を確保しております。完成後は、強固な基礎、最大60tの天井走行クレーンの使用により、当社グループが得意とする超大型機の組立工場として、成長戦略に寄与いたします。



完成予想図

■沼津第1テクニカルセンター 建設開始

沼津本社工場正門内側の沼津第1テクニカルセンターの建設工事が、本年10月の完成に向けて始まりました。

沼津第1テクニカルセンターは、建築面積1,221㎡の鉄骨造3階建て、各フロアの配置は、1階には射出成形機のテクニカルセンター、2階は機械室・測定室等、3階は来客ゾーンとし、射出成形機のトレーニング室・会議室となる予定です。

この沼津第1テクニカルセンターの完成によって、当社の中核である射出成形機事業の拡充を図り、当社グループの一層の成長と飛躍に貢献いたします。



完成予想図

■大型門形加工機MPB-3580を設備

東芝機械マシナリー株式会社（当社100%子会社）の製品である大型門形加工機MPB-3580が沼津本社大型工場内に設置されました。本機は門幅3,500mm、門高3,015mm、テーブル全長8,000mm、テーブル最大積載質量45,000kgfで、最新鋭の自社製NC装置TOSNUC999を搭載しており、特に大型工作機械の大部品加工における生産効率を大幅に改善いたします。

好調な工作機械事業においてリードタイムの短縮・生産性の向上は大きな課題ですが、御殿場第2工場の建設に加え、このような加工設備の増強も同時に実施して成果に結びつけてまいります。



大型工場に設置されたMPB-3580外観

■（新製品）超精密立形加工機「UVM-450C」発売
～超精密金型・導光板金型の高効率加工を実現～

当社の精密機器事業部は、高速立形加工機F-MACHシリーズおよび小型導光板金型加工機UVM-350Bの後継機として、超精密立形加工機「UVM-450C」を、本年4月に開催されたインターモールド2008展示会に出品し、本格販売を開始いたしました。

本機は、毎分6万回転の空気静圧軸受主軸（エアスピンドル）を搭載し、高速金型加工、微細形状加工および19インチまでの中小型液晶ディスプレイ用の導光板金型加工などに対応いたします。また、超精密非球面加工機で実績のあるリアモータをX、Y、Zの3軸に採用し、最小設定単位は10nm（ナノメートル）です。さらに、当社独自の技術である構造体冷却システムを標準搭載し、加工精度の安定化を実現いたしました。



超精密立形加工機「UVM-450C」

■（新製品）門形加工機「MPC-EⅡシリーズ」発売
～重切削能力の向上による高生産性を実現～

東芝機械マシナリー株式会社（当社100%子会社）は、大型基幹部品の加工で評価を得ているクロスレール昇降形門形加工機のMPC-Eシリーズをモデルチェンジし、多様な機械加工に対応する「MPC-EⅡシリーズ」を開発し、4月より発売を開始いたしました。

門幅に4つのサイズをバリエーション化し、五面加工ヘッド・90度アングルヘッドのほか、ノーズタイプヘッド（スナウト）や角度毎に主軸がチルトするインデックスヘッドなど豊富な自動交換タイプのアタッチメントを揃えております。主軸は標準で毎分4,000回転を実現し、今まで以上の重切削を可能にしたほか、高速加工にも対応するため、オプションで主軸6,000回転仕様も装備することができます。

また、最新鋭の自社製NC装置TOSNUC999を搭載、サーボ性能の向上と演算処理の高速化を実現したほか、自動工具交換機能、自動アタッチメント交換機能の手動操作をタッチパネル化し、操作性の向上を図っております。



門形加工機「MPC-EⅡシリーズ」

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

科 目	第85期 (平成20年3月31日現在)	第84期 (平成19年3月31日現在)	科 目	第85期 (平成20年3月31日現在)	第84期 (平成19年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	122,881	147,750	流 動 負 債	76,468	93,401
現金及び預金	17,083	36,027	支払手形及び買掛金	37,875	49,479
受取手形及び売掛金	53,917	65,327	短期借入金	20,150	22,806
有 価 証 券	17,500	—	未払法人税等	5,824	5,403
たな卸資産	30,138	41,648	未 払 費 用	6,265	7,296
繰延税金資産	3,089	2,779	前 受 金	4,241	6,079
その他の流動資産	1,530	2,415	製品保証引当金	86	112
貸倒引当金	△ 378	△ 448	その他の流動負債	2,025	2,223
固 定 資 産	35,116	40,295	固 定 負 債	11,526	23,616
有形固定資産	22,443	25,393	長期借入金	—	10,150
建物及び構築物	10,928	11,182	長期未払金	2,009	—
機械装置及び運搬具	4,051	5,811	繰延税金負債	—	3,198
土 地	6,060	6,062	退職給付引当金	9,309	10,268
建設仮勘定	605	1,285	役員退職慰労引当金	207	—
その他の有形固定資産	798	1,052	負 債 合 計	87,994	117,017
無形固定資産	619	824	純資産の部		
投資その他の資産	12,053	14,077	株 主 資 本	67,567	61,909
投資有価証券	9,101	12,051	資 本 金	12,484	12,484
出 資 金	56	56	資 本 剰 余 金	19,600	19,600
長期貸付金	204	242	利 益 剰 余 金	43,879	31,895
繰延税金資産	2,124	612	自 己 株 式	△ 8,397	△ 2,071
その他の投資	948	1,120	評 価 ・ 換 算 差 額 等	2,436	6,023
貸倒引当金	△ 382	△ 5	その他有価証券評価差額金	2,469	6,010
資 産 合 計	157,998	188,046	繰延ヘッジ損益	23	14
			為替換算調整勘定	△ 56	△ 0
			少 数 株 主 持 分	—	3,095
			純 資 産 合 計	70,003	71,028
			負債・純資産合計	157,998	188,046

（注）第84期に連結子会社であった株式会社ニューフレアテクノロジーは、第85期より持分法適用関連会社に変更となり、連結対象から除外されております。

損益計算書（連結）

キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

科目	第85期	第84期
	（平成18年4月1日から 平成20年3月31日まで）	（平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで）
売上高	148,779	164,385
売上原価	101,628	109,800
売上総利益	47,151	54,584
販売費及び一般管理費	28,180	34,077
営業利益	18,971	20,506
営業外収益	875	1,143
営業外費用	1,667	1,929
経常利益	18,178	19,721
特別利益	6,503	558
特別損失	4,162	530
税金等調整前当期純利益	20,519	19,749
法人税、住民税及び事業税	9,570	8,801
法人税等調整額	△2,961	△364
少数株主利益	—	483
当期純利益	13,910	10,828

（単位：百万円）

科目	第85期	第84期
	（平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで）	（平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,445	10,621
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,724	△5,076
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,558	△9,084
現金及び現金同等物に係る換算差額	△55	157
現金及び現金同等物の増減額	△1,444	△3,381
現金及び現金同等物の期首残高	36,027	39,409
現金及び現金同等物の期末残高	34,583	36,027

株主資本等変動計算書（連結）

第85期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成19年3月31日 残高	12,484	19,600	31,895	△2,071	61,909	6,010	14	△0	6,023	3,095	71,028	
当連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△1,926		△1,926						△1,926	
当期純利益			13,910		13,910						13,910	
自己株式の取得				△6,325	△6,325						△6,325	
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額（純額）						△3,540	8	△55	△3,586	△3,095	△6,682	
当連結会計年度中の変動額合計	—	—	11,983	△6,325	5,657	△3,540	8	△55	△3,586	△3,095	△1,024	
平成20年3月31日 残高	12,484	19,600	43,879	△8,397	67,567	2,469	23	△56	2,436	—	70,003	

（注）第84期に連結子会社であった株式会社ニューフレアテクノロジーは、第85期より持分法適用関連会社に変更となり、連結対象から除外されております。

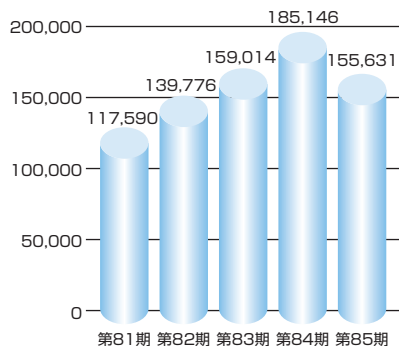
業績の推移 (連結)

財務ハイライト

	第81期 (平成15年度)	第82期 (平成16年度)	第83期 (平成17年度)	第84期 (平成18年度)	第85期 (平成19年度)
受注高(百万円)	117,590	139,776	159,014	185,146	155,631
売上高(百万円)	110,658	123,572	144,356	164,385	148,779
経常利益(百万円)	5,564	10,772	15,604	19,721	18,178
当期純利益(百万円)	4,153	7,093	10,482	10,828	13,910
1株当たり当期純利益(円)	24.71	42.48	63.16	65.80	86.79
総資産(百万円)	148,308	145,057	172,476	188,046	157,998
純資産(百万円)	42,230	47,623	60,347	71,028	70,003

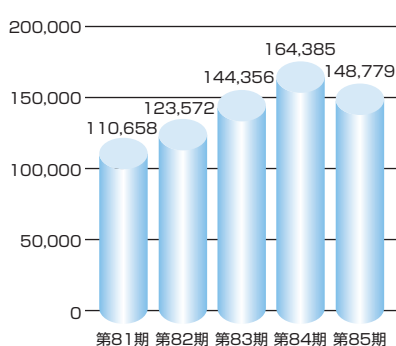
受注高

(単位: 百万円)



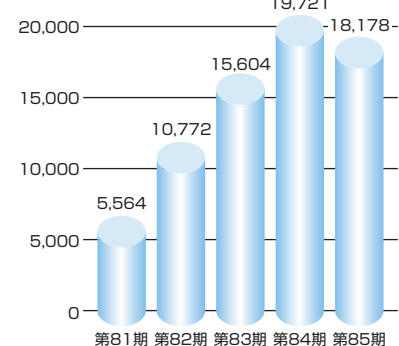
売上高

(単位: 百万円)



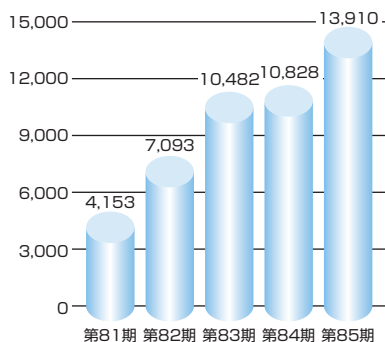
経常利益

(単位: 百万円)



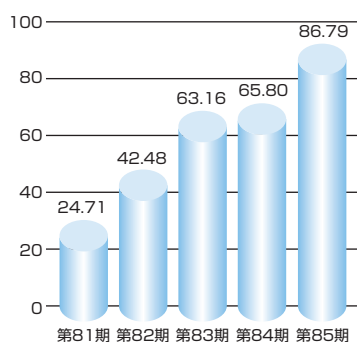
当期純利益

(単位: 百万円)



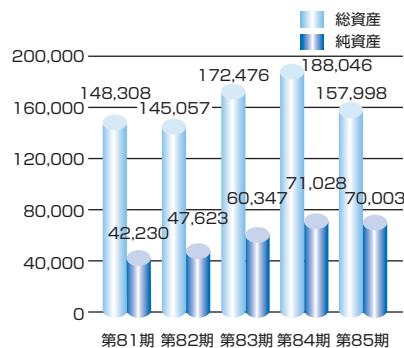
1株当たり当期純利益

(単位: 円)



総資産／純資産

(単位: 百万円)



(注) 第84期まで連結子会社であった株式会社ニューフレアテクノロジーは、第85期より持分法適用関連会社に変更となり、連結対象から除外されております。

貸借対照表（単独）

（単位：百万円）

科 目	第85期	第84期
	(平成20年3月31日現在)	(平成19年3月31日現在)
資 産 の 部		
流動資産	93,411	92,247
固定資産	35,878	41,121
有形固定資産	18,273	18,065
無形固定資産	259	296
投資その他の資産	17,344	22,759
資 産 合 計	129,289	133,368
負 債 の 部		
流動負債	63,241	56,868
固定負債	8,121	18,612
負 債 合 計	71,362	75,481
純資産の部		
株主資本	55,440	51,874
資本剰余金	12,484	12,484
利益剰余金	19,600	19,600
自己株式	△ 8,397	△ 2,071
評価・換算差額等	2,486	6,013
その他有価証券評価差額金	2,463	5,999
繰延ヘッジ損益	23	14
純 資 産 合 計	57,926	57,887
負債・純資産合計	129,289	133,368

損益計算書（単独）

（単位：百万円）

科 目	第85期	第84期
	(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)	(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)
売上高	101,083	99,909
売上原価	78,318	76,161
売上総利益	22,764	23,747
販売費及び一般管理費	14,156	13,882
営業利益	8,608	9,865
営業外収益	4,609	3,331
営業外費用	1,280	1,242
経常利益	11,937	11,954
特別利益	6,950	707
特別損失	3,288	197
税引前当期純利益	15,600	12,464
法人税、住民税及び事業税	6,150	4,600
法人税等調整額	△ 2,368	129
当期純利益	11,818	7,735

株主資本等変動計算書（単独）

第85期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株 主 資 本										評 価 ・ 換 算 差 額 等				純資産合計	
	資本金	資本剰余金				利益剰余金				自己株式	株主資本計	その他有価証券評価差額	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額		価・算等計
		資本準備金	その剰余	の他本金	資剰余金計	その他利益剰余金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金計							
平成19年3月31日 残高	12,484	11,538	8,062	19,600	313	21,546	21,860	△ 2,071	51,874	5,999	14	6,013	57,887			
当事業年度中の変動額																
固定資産圧縮積立金の取崩					△ 16	16	—		—				—			
剰余金の配当						△ 1,926	△ 1,926		△ 1,926				△ 1,926			
当期純利益						11,818	11,818		11,818				11,818			
自己株式の取得								△ 6,325	△ 6,325				△ 6,325			
株主資本以外の項目の当事業年度中の変動額（純額）										△ 3,535	8	△ 3,526	△ 3,526			
当事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	△ 16	9,908	9,891	△ 6,325	3,565	△ 3,535	8	△ 3,526	39			
平成20年3月31日 残高	12,484	11,538	8,062	19,600	297	31,454	31,752	△ 8,397	55,440	2,463	23	2,486	57,926			

会社の概況

(1) 商号

東芝機械株式会社
(TOSHIBA MACHINE CO., LTD.)

(2) 所在地

東京都千代田区内幸町2丁目2番2号

(3) 創業

1938年(昭和13年)12月

(4) 設立

1949年(昭和24年)3月

(5) 資本金

124億84百万円

(6) 従業員数

連結：3,246名(前期末比189名減)
単独：1,661名(前期末比35名増)

(7) 主要な事業内容

事業	主要製品
成形機事業	射出成形機 ダイカストマシン 押出成形機
工作機械事業	大型機 門形機 横中ぐり盤 立旋盤 精密加工機
その他の事業	油圧機器 電子制御装置

(8) 役員(平成20年6月26日現在)

代表取締役社長	中島礼二
代表取締役専務取締役	竹山幸成
専務取締役	跡部與志
常務取締役	田中秀雄
取締役	矢野文久
取締役	井出彰訓
取締役	飯村幸生
取締役	芳村享映
取締役	岸本吉弘
取締役	鈴木孝尚
常勤監査役	松本倫雄
常勤監査役	鈴木正博
常勤監査役	広中哲武
監査役	高木利武

(9) 主要な営業所および工場

本社 (静岡県沼津市大岡2068番地の3)

本店・支店

- 東京本店 (東京都千代田区内幸町2丁目2番2号)
- 関西支店 (大阪市)
- 中部支店 (名古屋市)
- 九州支店 (福岡市)
- 東北支店 (仙台市)

工場

- 本社工場 (静岡県沼津市)
- 相模工場 (神奈川県座間市)
- 御殿場工場 (静岡県御殿場市)

営業所

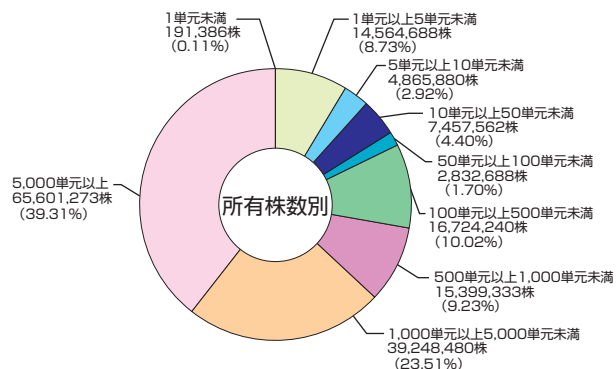
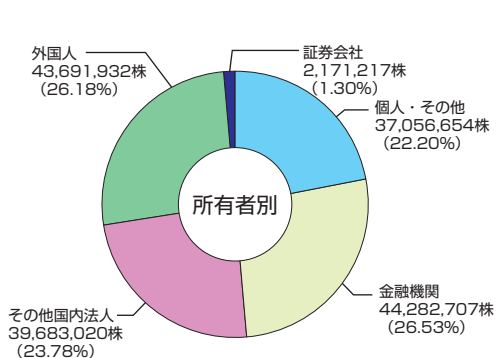
- 高崎営業所 (群馬県高崎市)
- 静岡営業所 (静岡県掛川市)
- 福山営業所 (広島県福山市)

株式の状況

- ①発行可能株式総数 360,000,000株
- ②発行済株式の総数 166,885,530株（自己株式9,836,006株を含む）
- ③株主数 11,632名（前期末比569名増）
- ④大株主（上位10名）

株 主 名	持 株 数
株 式 会 社 東 芝	33,545千株
日本スタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	15,197
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	7,023
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エスエル オムニバス アカウント	3,631
株 式 会 社 静 岡 銀 行	2,980
ピーピーエイ ルクス フィデリティ ファンズ ジャパン ファンド	2,858
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	2,682
マ サ ジャパニーズ エクイティ	2,457
ト ヨ タ 自 動 車 株 式 会 社	2,420
クレジット スイス ファースト ポストン ヨーロッパ ピーピー セク アイエヌティ ノントリーティ クライアント	2,186

⑤株式の分布状況



ホームページのご紹介



東芝機械ではホームページによる情報開示を積極的に行なっております。財務情報や最新ニュースを始めとするIRサイトも掲載しており、製品情報も含めて随時更新を行なっております。

<http://www.toshiba-machine.co.jp>

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会については3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
期末配当基準日	毎年3月31日
中間配当基準日	毎年9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先) (電話照会先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店



この報告書は、環境に優しい大豆油インキを使用して印刷しています。